

(10) ピーマン
ア 殺菌剤

農薬名	成分名	系統名	FRACコード	適用病害虫名										注意事項
				うどんこ病	疫菌病	黒核病	黒枯病	苗木枯病	軟腐病	灰かび病	斑点細菌病	斑点病	モザイク病感染防止	
アフエットフロアブル	ベンチオフラト [®]	アミト [®]	7	◎			◎				◎	◎		
アミスターオプティフロアブル	アゾキシストロビン・TPN	混合剤	11・M05	◎	◎		◎				◎	◎		
アーリーセーフサンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド [®]	天然物由来		野										野：【野菜類登録】注2)
インプレッションクリア	バチルス アミロクエファシエンス	生物農薬	BM02	野			◎				野			野：【野菜類登録】
インプレッション水和剤	バチルス スプバチス	生物農薬	BM02	野							野			野：【野菜類登録】
オーソサイド水和剤 80	キャブタン	その他	M04					◎						
オリゼメート粒剤	プロヘナゾール	その他	P02	◎								◎		
カスミンボルドー カップーシン水和剤	カスカマイシン・塩基性塩化銅	混合剤	24・M01	◎								◎	◎	
カンタスドライフロアブル	ホスカリト [®]	アミト [®]	7				◎				◎			
コサイド 3000	水酸化第二銅	無機殺菌	M01							野		野		野：【野菜類登録】
サプロール乳剤	トリホリン	SBI	3	◎										
サンヨール	DBEDC	有機銅	M01	◎										夏期・高温時には、薬害を生じる恐れがある。
シグナムWDG	ピラクrostロビン・ホスカリト [®]	混合剤	11・7	◎			◎				◎	◎		
ジーファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・無水硫酸銅	混合剤	NC・M01	野						野				野：【野菜類登録】 幼苗期の散布は避ける。
スクレアフロアブル	マンデストロビン	ストロベリリン	11				◎							
スターナ水和剤	オキソニク酸	その他	31							◎				
ストロビーフロアブル	クロキシメチル	ストロベリリン	11	◎			◎							浸透性展着剤との混用は避ける。
スコア顆粒水和剤	ジフェノコゾール	SBI	3	◎										
スマレックス水和剤	プロシト [®]	ジカホキニト [®]	2				◎	◎			◎			
セイビアーフロアブル 20	フルジオキサニル	その他	12								◎			
ダコニール 1000	TPN	その他	M05	◎			◎					◎		
ドーシャスフロアブル	シアゾファミト [®] ・TPN	混合剤	21・M05		◎							◎		
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	ベンゾイミダゾール	1				◎							
トリフミン水和剤	トリフルゾール	SBI	3	◎										
パレード 20フロアブル	ピラジフルミト [®]	その他	7	◎			◎				◎			
パンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミト [®] ・トリフルゾール	混合剤	U06・3	◎										
ピシロックフロアブル	ピカルボトキサ	その他	U17		◎									
フルピカフロアブル	メバニピリム	アニリピリジン	9	◎										
ベジセイバー	ベンチオフラト [®] ・TPN	混合剤	7・M05	◎			◎				◎	◎		
ベンレート水和剤	ベンゾニル	ベンゾイミダゾール	1	◎								◎		

農薬名	成分名	系統名	FRACコード	適用病害虫名										注意事項		
				うどんこ病	疫病	菌核病	黒枯病	苗立枯病	軟腐病	灰色かび病	斑点細菌病	斑点病	モザイク病感染防止			
ポトキラー水和剤	パチルススプチルス	生物農薬	BM02	野												野:【野菜類登録】ダクト内投入は1ヶ月当たり300~450g/10aになるように投入し、暖房機などが数時間以上運転される条件下で使用。
ポリオキシシンAL乳剤	ポリキシシ	抗生物質	19	◎												
モレスタン水和剤	キキサン系	その他	M10	◎												
モンカット水和剤	フルラニル	アミト	7						野							野:【野菜類登録】
ライメイフロアブル	アミルプロム	その他	21		◎											
ラリー水和剤	マイクロタニル	SBI	3	◎									◎			
ランマンフロアブル	シアゾファミド	その他	21		◎											
リゾレックス水和剤	トルクロスメチル	有機リン	14						◎							
リドミル粒剤2	メタキシル	アミト	4		◎											植穴処理を避け、株元散布。
ルビゲン水和剤	フェリメル	SBI	3	◎												
レーバスフロアブル	マンジプロパミド	アミト	40		◎											
レンテミン	シタケ菌糸体抽出物	天然物由来												◎		移植及び各作業(摘芽、誘引等)の直前に散布。展着剤を加用し、葉の表裏にまきむらがないようにする。
ロブラール水和剤	イプロジホ	ジカルボキサイド	2			◎					◎					
Zボルドー	塩基性硫酸銅	無機殺菌	M01							野		野				野:【野菜類登録】
< 種子消毒 >																
オーソサイド水和剤80	キャプタン	その他	M04						◎							
モンカット水和剤	フルラニル	アミト	7						野							野:【野菜類登録】
リゾレックス水和剤	トルクロスメチル	有機リン	14						◎							
< くん煙剤 >																
スマレックスくん煙顆粒	プロシト	ジカルボキサイド	2									◎				
トリフミンジェット	トリフルシール	SBI	3	◎												
モレスタン水和剤	キキサン系	その他	M10	◎												
ロブラールくん煙剤	イプロジホ	ジカルボキサイド	2			◎					◎					
< 常温煙霧剤 >																
ポトキラー水和剤	パチルススプチルス	生物農薬	BM02									野				野:【野菜類登録】最低温度が10℃以上確保される施設内で使用する。作業終了後6時間以上密閉する。

注1) 苗立枯病の対象病原菌の表記 R:Rhizoctonia

注2) ストリルン系薬剤およびTPN剤とその混合剤との混用および近接散布を避ける。ストリルン系薬剤を含む農薬を散布した後に本剤を使用する際は2週間以上間隔をあける。アセチアミド剤、トリフルシール剤、ベニミル剤、キャプタン剤と混用しない。

(10) ピーマン
イ 殺虫剤

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	I R A C コード	適 用 病 害 虫 名												注 意 事 項			
				ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ミ ナ ミ キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ブ ラ ム シ 類	ネ キ リ ム シ 類	タ バ コ ガ 類	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	チ ヤ ノ ホ コ リ ダ ニ	ハ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ュ ウ 類		コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫		
ア ク セ ル フ ロ ア ブ ル	メタフルミゾン	その他	22B									◎							
ア ク タ ラ 粒 剤	5チアトキサム	ネニコチノイド	4A			◎		◎											
ア ク タ ラ 顆 粒 水 溶 剤	チアトキサム	ネニコチノイド	4A			◎		◎											
ア グ リ メ ッ ク	アバメクチン	マクロライド	6	◎			◎						◎						
ア タ ブ ロ ン 乳 剤	コルフルアズロン	I GR	15			◎						◎	◎						
ア ド バ ン テ ー ジ 粒 剤	カルボスルファン	カーバメート	1A			◎													
ア ド マ イ ヤ ー 1 粒 剤	イミダクプロリト	ネニコチノイド	4A	◎				◎											
ア ド マ イ ヤ ー 水 和 剤	イミダクプロリト	ネニコチノイド	4A	◎				◎											
ア ド マ イ ヤ ー 顆 粒 水 和 剤	イミダクプロリト	ネニコチノイド	4A	◎				◎											
ア フ ェ ー ム 乳 剤	エマメクチン安息香酸塩	マクロライド	6				◎					◎							
ア フ ィ パ ー ル	コレマンアフラバチ	生物農薬						施											施：【野菜類（施設栽培）登録】
ア ベ イ ル 粒 剤	アセタミアリト・シアントラニリフロール	混合剤	4A・28	◎			◎	◎										◎	
ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤	ジノテフラン	ネニコチノイド	4A	◎			◎	◎											
ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤	ジノテフラン	ネニコチノイド	4A	◎			◎	◎											
ア ル バ リ ン 顆 粒 剤	ジノテフラン	ネニコチノイド	4A	◎			◎	◎											
ウ ラ ラ D F	フロニカミト	その他	29					◎											
エ ス マ ル ク D F	BT	生物農薬	11A										野						野：【野菜類登録】
オ リ ス タ ー A	クイリケヒメナカメシ	生物農薬		施															施：【野菜類（施設栽培）登録】
オ タ イ リ ク	クイリケヒメナカメシ	生物農薬		施															施：【野菜類（施設栽培）登録】
ト ス パ ッ ク	クイリケヒメナカメシ	生物農薬		施															施：【野菜類（施設栽培）登録】
オ ル ト ラ ン 粒 剤	アセフェート	有機リン	1B					◎											
カ ウ ン タ ー 乳 剤	ハルロン	I GR	15									◎							
カ ス ケ ー ド 乳 剤	フルフェノクスロン	I GR	15			◎						◎							
ガ ゼ ッ ト 粒 剤	カルボスルファン	カーバメート	1A			◎		◎											
カ ネ マ イ ト フ ロ ア ブ ル	アセキノシル	殺ダニ	20B									◎	◎						
ギ フ パ ー ル	ギンアフラバチ	生物農薬						施											施：【施設栽培登録】ジガクイモヒゲナガアブラムシとモロアブラムシに対する天敵殺虫剤
ク ク メ リ ス	ククメスアブリダニ	生物農薬		施															施：【野菜類（施設栽培）登録】
グ レ ー シ ア 乳 剤	フルキサタミト	その他	30	◎			◎				◎		◎	◎					
コ テ ッ フ ロ ア ブ ル	コルフェナピル	その他	13		◎	◎						◎			◎				

農薬名	成分名	系統名	IRACコード	適用病害虫名											注意事項			
				アザミウマ類	ミカンキイロアザミウマ	ミナミキイロアザミウマ	コナジラミ類	アブラムシ類	ネキリムシ類	タバコガ類	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	チヤノホコリダニ	ハダニ		ネコブセンチュウ類	コガネムシ類幼虫	
コルト顆粒水和剤	ビリフルキナゾン	その他	9B				◎	◎										
コロマイト乳剤	ミルベメクチン	マクロライト	6				◎						◎	◎				
サンマイトフロアブル	ビリダベン	殺ダニ	21A				◎											
スピノエース顆粒水和剤	スピノサト	スピノシン	5	◎								◎						
スワルスキー	スワルスキー-カブリダニ	生物農薬		施				施					施					施：【野菜類（施設栽培）登録】
スターマイトフロアブル	シエルラフェン	殺ダニ	25A										◎	◎				
ゼンターリ顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A									野	野					野：【野菜類登録】
ダニトロンフロアブル	フェンピロキシメト	殺ダニ	21A											◎				
ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサト	混合剤	5	◎			◎					◎		◎				
ダブルフェースフロアブル	ビフルメト・フェンピロキシメト	混合剤	25B・21A											◎				
ダントツ水溶剤	クロチアジソン	ネコチノイト	4A			◎	◎	◎										
ダントツ粒剤	クロチアジソン	ネコチノイト	4A					◎										
ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン	殺ダニ	25A											◎				
チェス顆粒水和剤	ビメトキシソン	その他	9B					◎										
チェス粒剤	ビメトキシソン	その他	9B					◎										
デアアナSC	スピネトラム	スピノシン	5	◎			◎					◎	◎					
デルフィン顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A									野	野					野：【野菜類登録】
トランスフォームフロアブル	スルホキサフロ	その他	4C				◎	◎										
トルネードエースDF	インドキサカルブ	その他	22A									◎						
ニッソラン水和剤	ヘキサチアゾクス	殺ダニ	10A											◎				
ネマキック液剤	イシアホス	殺線虫	1B											◎				生育期処理：薬液処理後に5～20リットル/㎡を灌水する。
ネマトリンエース粒剤	ホスチアゼート	殺線虫	1B											◎				
ハチハチ乳剤	トルフェンピラト	その他	21A	◎			◎						◎					
バイデートL粒剤	オキサミル	カーバメート	1A			◎		◎								◎		
パイレーツ粒剤	メクリジウムアゾプロリエ	生物農薬		施														施：【野菜類（施設栽培）登録】
バリアード顆粒水和剤	チアクロプリト	ネコチノイト	4A					◎										
ファインセーブフロアブル	フロメキン	その他	34	◎			タ											タ：【タバコナジラミ類（シルバーリーフコナジラミを含む）に適用】
ファルコンフロアブル	メキシフェニジト	IGR	18									◎	◎					
フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミト	ジアミト	28									◎						
プリファード水和剤	ベキロマイセス フモソロセス	生物農薬					施	施	ワ									施：【野菜類（施設栽培）登録】 ワ：【ワカアブラムシに適用】

(10) ピーマン
ウ 土壤消毒剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適 用 病 害 虫 名											注 意 事 項	
			ケ ラ	ネ キ リ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	ハ リ ガ ネ ム シ 類	セ ン チ ユ ウ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	青 枯 病	萎 凋 病	疫 病	苗 立 枯 病 R		
キ ル パ ー	カーハムトリウム塩	I:8F							◎		◎			◎	
ク ロ ー ル ピ ク リ ン	クロルピクリン	I:8B	◎	◎		◎	◎			◎	◎	◎			
ク ロ ピ ク テ ー プ	クロルピクリン	I:8B								◎		◎	◎	◎	
ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤	クロルピクリン	I:8B					◎			◎	◎	◎			
ク ロ ピ ク 8 0 ド ジ ョ ウ ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル	クロルピクリン	I:8B		◎		◎	◎				◎				
ソ イ リ ー ン	クロルピクリン・D-D	I:8B・8A						◎	◎	◎					
ダ ブ ル ス ト ッ パ ー	クロルピクリン・D-D	I:8B・8A						◎	◎	◎	◎				地温7℃以上の時に使用
テ D C 油 剤 D ー D	D-D	I:8A			◎			◎	◎						
ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤	ダゾメット	I:8F								◎	◎			◎	適正な土壌水分の確保に努める

注) 苗立枯病の対象病原菌の表記 R:Rhizoctonia

(10) ピーマン
エ 残渣処理剤

農 薬 名	成 分 名	I R A C コ ー ド	使用目的	注 意 事 項
キルパー	カーバムトリウム塩	8F	前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止	使用目的以外での 使用不可
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物のアザミウマ類蔓延防止	
			前作のきゅうりのコナジラミ類蔓延防止	
			前作のイチゴのネグサレセンチュウ蔓延防止	
			前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止	
			前作のナスのフザリウム立枯病の蔓延防止	
			前作のねぎの収穫残渣に寄生したクロバネキノコバエ類蔓延防止	
			前作のキュウリの褐斑病の蔓延防止	

オ 病害虫防除法（ピーマン）

（ア）青枯病 *Ralstonia solanacearum*

（防除のねらい）
（耕種的防除法）

トマトの項参照

（イ）うどんこ病 *Oidiopsis sicula*

（防除のねらい）

本菌は、トウガラシ、オクラにも寄生するため、付近に発病株があれば注意する。発病して落葉した葉も伝染源となるので早めに除去する。施設栽培では換気を図る必要があるが、乾燥し過ぎても発生しやすくなる。病勢が進むと防除困難になるので発病初期の防除に努める。

（耕種的防除法）

- （1）ハウスでは密植を避け換気に努める。
- （2）着果負担の増大による草勢低下は、発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。

（ウ）疫 病 *Phytophthora capsici*

（防除のねらい）

多発ほ場ではウリ科作物にも発生するので、輪作作物の選択に留意する。ハウス栽培では地際や根部が侵され立枯症状を示すことが多い。排水不良の過湿状態で発生するので、その対策と予防的に薬剤散布を行う。

（耕種的防除法）

- （1）激発地では連作を避ける。この場合ナス科、ウリ科作物との輪作は避ける。
- （2）トマトの項参照

（エ）菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

（防除のねらい）
（耕種的防除法）

キュウリの項参照

（オ）苗立枯病 *Rhizoctonia solani*

（防除のねらい）
（耕種的防除法）

キュウリの項参照

（カ）軟腐病 *Erwinia carotovora* subsp. *carotovora*

（防除のねらい）
（耕種的防除法）
（化学的防除法の注意事項）

トマトの項参照

（キ）灰色かび病 *Botrytis cinerea*

（防除のねらい）
（耕種的防除法）
（化学的防除法の注意事項）

キュウリの項参照

トマトの項参照

（ク）斑点細菌病 *Xanthomonas campestris* pv. *vesicatoria*

（防除のねらい）
（耕種的防除法）

トマトの項参照

（ケ）斑点病 *Cercospora capsici*

（防除のねらい）

ハウス栽培の11～12月及び3～4月に発生が多いが、育苗期にも発生する。病斑が進展すると落葉する。気温20～25℃、多湿条件で発病しやすい。病原菌が侵入してからの防除は困難なので、予防散布を基本に行う。

（耕種的防除法）

- （1）ハウスでは換気や通風を良好にして多湿を防ぐ。
- （2）罹病した茎葉、果実は伝染源となるのでほ場外に持出し処分する。

(コ) 黒 枯 病 *Corynespora cassiicola*

(防除のねらい)

10～11月頃から認められ、12～2月は一旦終息するが、3月以降気温の上昇とともに急激に発生程度が高まる。葉だけでなく、果実にも発生するので被害が大きい。多湿と高温（発病適温28℃）条件で発病しやすい。

10～11月の生育初期の防除が重要で、早期発見と早めの防除に努める。特に前作で多発したほ場では発生に注意する。

(耕種的防除法)

- (1) ハウスでは換気や通風を良好にして多湿を防ぐ。
- (2) 罹病した茎葉、果実は伝染源となるのでほ場外に持出し処分する。
- (3) 支柱などの生産資材の消毒を徹底する。

(サ) モザイク病 CMV, PMMV

(防除のねらい)

病原ウイルスはキュウリモザイクウイルス (CMV) とタバコモザイクウイルス・トウガラシ系 (PMMV) が主体である。CMVはモモアカアブラムシ、ワタアブラムシなどにより伝播されるので、アブラムシ対策を講ずる。PMMVは種子伝染、土壌伝染、汁液伝染をするので総合的な対策を必要とする。

(耕種的防除法)

- (1) 健全種子を用いる。育苗は寒冷紗被覆をする。
- (2) 定植時に汚染の可能性のある株は取り除くか、別に植えておき管理する。
- (3) 発病株を認めたら除去する。症状の軽いものは、管理を別にして接触伝染を避ける。

(シ) ミナミキイロアザミウマ

(防除のねらい)

露地越冬が困難で、施設→露地→施設のサイクルで発生を繰り返す。これを施設栽培の段階で断ち切ることが重要である。薬剤に対する感受性低下の事例が見られるので、薬剤防除だけに頼らず、耕種的防除法を組み入れた総合防除を行う必要がある。

(耕種的防除法) キュウリの項参照

(化学的防除法の注意事項)

- (1) 青色粘着シートを設置し、成虫の早期発見と初期防除に努める。
- (2) 新芽や花の中、果実のへたの下など葉のかかりにくいところに潜んでいるので、薬剤は丁寧に散布する。
- (3) 多発してからの防除は困難なので、少発生時から定期的に防除する。
- (4) 抵抗性が発達しやすいので、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

(ス) ミカンキイロアザミウマ

(防除のねらい)

寄主範囲が広く、野菜類、マメ類、花き等、多くの作物を加害する。ミナミキイロアザミウマと外観は似るが、低温耐性が強く、露地でも越冬が可能である。また、薬剤に対する感受性はミナミキイロアザミウマとは異なるので、注意が必要である。早期発見に努め、発生初期から防除を行う。

(耕種的防除法)

- (1) ほ場や施設の周辺部の雑草でも繁殖する。除草を行うなど環境整備に努める。
- (2) 成虫の侵入を防ぐため、施設の開口部は寒冷紗などを設置する。

(セ) タバココナジラミ

(防除のねらい)

被害は作物によって異なり、ピーマンでは吸汁害とすす病の発生による果実の汚れが問題となる。薬剤に対する抵抗性が強く多発すると防除が困難なので、初期防除に努めるとともに、防虫ネットの利用など総合的な防除に努める。他はトマトの項を参照する。

(耕種的防除法) トマトの項参照

(ソ) アブラムシ類

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

(化学的防除法の注意事項)

} ナスの項参照

抵抗性が発達しやすいので、作用性が異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。

(タ) ネキリムシ類

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

} ナスの項参照

(チ) オオタバコガ

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

(化学的防除法の注意事項)

} トマトの項参照

(ツ) タバコガ

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

(化学的防除法の注意事項)

} トマトのオオタバコガの項参照

(テ) ハスモンヨトウ

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

(化学的防除法の注意事項)

} トマトの項参照

(ト) チャノホコリダニ

(防除のねらい)

ナス、トマト、ゴマ、スイカ、インゲンなどにも発生する。芯止まりや奇形果，傷果になる。露地栽培では夏季に発生し，ハウス栽培では9～10月の育苗期から発生する。

本種は卵から成虫までの発育期間が短く，短期間に急激に増殖するので，特に発生初期の防除が重要である。

(耕種的防除法)

ナスの項参照

(ナ) ハダニ類

(防除のねらい)

施設栽培での発生加害が主体である。高密度になると葉が黄化し，落葉するので，防除は発生初期に十分行う。

(ニ) ネコブセンチュウ

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

} キュウリの項参照